封筒屋通信

2026年 12月号

【 LUMINA～光沢三銃士～ 】

封筒屋通信をご覧いただきまして誠にありがとうございます！
あっという間に1年が過ぎ去ろうとしていますが、いかがお過ごしでしょうか。
振り返るには早いですが、2026年は怒涛の1年でした…(。_。)



[キュリアスメタルN]

メタリックな風合いが落ち着いた印象を持つこちらの紙は、両面にパール加工が施されており、深みのあるカラーバリエーションが特徴です。
「Curious」という言葉には「不思議な」という意味があります。
88kgと220kgの2種類の厚みで、封筒だけでなくパッケージ等にもお勧めですが、水に塗れてしまうと色が落ちしてしまうため、要注意です⚠

[ミランダ]

ラメと表現したくなる3色のガラスフレークが瞬くこちらの紙は、光に翳してみると「赤・青・白色」に輝いてとても美しいです。
天王星を回る「衛星ミランダ」が由来とされています。
厚みによって光沢が片面と両面に分かれます。(130kgから両面光沢です)
光沢紙の中で比較的可愛らしい印象があるため、レターセットや招待状などにお使いいただきたいです。

[五感紙　荒目　純白キラ]

弾むようなエンボスとギラギラと輝くパールが眩しいこちらの紙は、フェルトのような手触りが特徴で、パール加工されている色は「純白」のみです。
加工は片面のみで、110kgと135kgの2種類のお取り扱いがございます。
凹凸とパールの相性も相まって、ふんだんに高級感を演出することができます。
⚠印刷の際は合成紙用インキの仕様を推奨しております⚠

今月のサンプル請求・感想はこちらから→→↑↑

◆現場レポート【スッポリット】

封筒サンプルについて現場の皆さんにお話を伺いました！

▼断裁（Nさん）
オンデマンド印刷による印刷ズレがあったため、調整に苦労しました。トンボ通りに切るとデザイン通りの見え方にならないため、最終的には少しだけ小さめに切ることで、柄合わせ部分などもデザイン通りになるよう断ちを行いました。

▼エキセン（Nさん）
前の断裁工程で綺麗に断ちができていたので、柄合わせなども苦労することなく、スムーズに作業を進めることができました。

▼窓抜き・貼り（Iさん）
最終工程で封筒の底側を落とすため、その際に窓フィルムが干渉しないよう注意してフィルムの位置を決めました。
また、高級な紙であることがわかっていたので、ロスが少なくなるように意識して作業しました。

▼製袋（Yさん）
今回はどちらの紙も糊がつきにくく、また紙が硬いことで非常に苦労しました。
糊がつきにくい点に対しては、塗布量を増やすだけでは心配だったため、糊付けした部分をしっかり押さえた後、一定時間重しを置く対応をとりました。
紙の硬さについては給紙部分で斜めに入ってしまったり、折り加工の箇所で機械内に詰まったり弾かれたりしたため、柄合わせができる状態にするまでの調整が大変でした。
最終的には、圧やエアー量の調整で思うように製袋ができるようになり、綺麗に貼ることができたと思います。

▼スッポリット加工（Tさん）
今回はすでに封筒形状になっているものを抜くため、通常とは異なる注意が必要でした。
封筒を複数枚重ねると膨らみが出るため、しっかりと押さえながら少ない枚数ずつ加工を行い、綺麗に直角が出るよう意識して抜きました。

●

用紙：キュリアスメタルN ホワイト 720×1020mm T目 88kg

気になるトナリの封筒　ザ・ワールド



◆海外のレターセット◆

今回ご紹介するのは海外で作成された（と思われる）レターセットです。
調べてみましたがいつどこで作られたものかがわからず、上記のような表現となっております。



ひとつは115×160mmのオレンジ色のOPPに、赤と緑のリンゴが並んだ2つ折りの便箋2枚と宛名シールのセット、ふたつめは116×172mmのグラシン封筒と、パンダのスタンプが印刷された2つ折りの便箋2枚と宛名のシールセット。

それぞれ便箋のイラストが封筒から見える仕様になっており、遊び心が満点です。
日本のレターセットというと封筒と便箋が同じ紙、デザインで作成されていることが多く、封筒自体が透けていたり、OPPを使用しているものは中々見かけません。
便箋は内側が方眼紙になっており、こちらも珍しいですね。



宛名も封筒に直接記入するのではなく、付属の宛名シールに記入し貼り付けるタイプです。
「セット」という呼び方ではありますが内容を見ていると1名分ですね。
便箋のデザインやOPPの色を変えることで使い分けることが出来そうです。

中々手紙を書く機会が減ってしまっている昨今ですが、こうした珍しい封筒や便箋を見ると、遠方の友達に、ずっと応援している人に、想いを綴ってみようかな、と思いますね。
手書きというのは打ち込んだ言葉よりも深く届くような気がします。

（蓮池）

◆今月の封筒サンプル◆





今月は「ミランダ（あい）」と「五感紙（純白キラ）」を使用し2種類のスッポリットを作成いたしました！

100×130mmの「ミランダ」は高さ82mm直径60mmの小瓶が入るサイズで、70×190mmの「五感紙」は、ハンドクリームなどのチューブから、お菓子の詰め合わせが入ります。封筒の下部には丸窓を付けており、内容物を覗かせることが可能です。

【スッポリット】は封入する商品に合わせて切り落とす角のサイズを調整できます。
小瓶から酒瓶、筒状でなくても厚みのある箱物もぴったり封入することができるのです。
窓もサイズや形状、位置を自由に指定いただけます。
(一旦工場に相談する場合もございます。)
新しい商品のパッケージに【スッポリット】はいかがでしょうか！？

（蓮池）

▼封筒屋通信

2026年12月号
(緑屋紙工株式会社 / 株式会社タクセル 共同発行)

緑屋紙工株式会社　封筒工房
▷https://futo-kobo.com
オンラインショップ　封筒屋どっとこむ
▷https://fuutouya.com

緑屋紙工株式会社
▷TEL 06-6709-8110　FAX 06-6708-9136
株式会社タクセル
▷TEL 06-4302-7740　FAX 06-4302-7741

〒547-0021　大阪市平野区喜連東5-16-15(住所同じ)

◆編集後記◆

今月も封筒屋通信をお読みいただきありがとうございます！
振り返ると今年はスポーツ観戦の他に、ライブに行くことが多かった1年でした(/・ω・)/⌒*★
好きなアーティストができるとすぐに「ライブに行きたい！」と思い、その勢いで直近のライブ情報を調べてチケットを取ってしまいます…(笑)(スポーツ観戦も似た感じですが)
拳を掲げていたのがいつしかタオル、旗、ペンライトと移り変わっており、好みの変動を感じます:(;゜゜'' ω゜''):
音楽だけは転々としているので、ここらへんで留まりたいなと、ふんわり思っていますが、来年はどうなるでしょうか。